

# AMDA Journal 号外

## ダイジェスト

発行：2003年12月 No.18 定価：100円  
 発行元：〒701-1202 岡山市榑津310-1  
 特定非営利活動法人 AMDA (アムダ)  
 TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959  
 E-mail：member@amda.or.jp  
 編集：AMDA Journal 編集室  
 ホームページ：http://www.amda.or.jp

スリランカは20年間に及ぶ内戦により、2002年1月の時点では80万人におよぶ国内避難民が北部を中心に存在し、その半数以上が現在も再定住を果すことができていません。

また、南インドに向かった避難民は8万人を超え、その帰還の詳細は明らかではありません。帰還できない主な理由は、第1に、ジャフナ半島を中心に北東部地域各地が政府軍関連施設としてHigh Security Zone (HSZ) に指定されており、一般の人々はアクセスできない状態であること、また、ジャフナ半島はもともと漁業が盛んであったが、漁場にいたってもHSZとなっているため、帰還後の生活も困難を強いられている点であります。第2の理由は、地雷ならびに不発弾の散在である。キリノッチを中心とした北部地域周辺には20～30万の地雷が埋まっており、除去には今後10年は必要とされています。

AMDAはジャフナにおいて社会開発事業としてコミュニティリハビリテーションプロジェクトを展開し、破壊された家屋をもとにコミュニティセンターの建設を進めています。これは住民参加型で実施され、帰還民が心理的・社会的に支援され、定住が促進される環境が整うようにコミュニティを支援することを目的としています。自分達のセンター建設のために、協力し合いながら、爽やかな笑顔を浮かべ一生懸命に作業する姿が印象的でした。

医療和平プロジェクトでは、北部を中心に3月より、ヴァヴニア、キリノッチ合計11箇所にて巡回診療を実施し、患者の診療延べ人数は1万人に達しようとしています。中には国内避難民状況を繰り返している患者も少なくありませんでした。現在まで、



↑ ジャフナにおけるAMDAコミュニティリハビリテーションプログラム風景

### スリランカの今…

### スリランカ医療和平プロジェクト開始から半年

タミル系イギリス人医師をはじめ、カンボジア、バングラデシュそして日本からの医師が、また11名の日本人看護師が厳しい環境に対処しながらも活躍しています。

8月に行われたセミナーでは政府保健省の方や、健康教育増進の専門家である北海道医療大学歯学部口腔衛生学講座教授 千葉逸朗薬学医学博士をゲストスピーカーとして招き、プロジェクトメンバーが全員集合し、歯の磨き方や、スネークバイト(蛇噛み)といったスリランカの生活に密着したテーマについて活発な意見や情報の交換が行われました。また、プロジェクトのもう一つの柱である、AMDA健康新聞も第3号まで発刊されました。AMDA健康新聞はタミル・シンハラ・英語の3言語表記に、地元小学生の絵を交えながら健康教育の情報を提供すると共に、平和のメッセージを添えて南部北部にて4,000部発行されています。平和を前進させるべく民族意識を超えた国民意識形成に寄与することを目的に実施しています。

現在、北部地区周辺、特にキリノッチ地区では病院の建設が国際機関やJICA等により着実に前進する一方で、医師や看護師が数名しかいません。また、電気供給が一日数時間と制限されているため病院としての機能を果せにくいという状況にあります。今後、医療和平プロジェクトはさらに交通アクセスが悪く、医療に接する機会の少ない地区へと、北部を中心に巡回診療のサイトを増やしていく予定です。加えて、電気の安定供給が進まない状況を鑑み、ソーラーパワーの設置支援を検討しております。また、北・南・東部バランスの取れた復興支援の充実のため、プロジェクト開始当初より計画されていたスリランカ東部での活動を実施する予定です。

銃撃による爪痕が残る地域の公民館を借りての巡回診療場所にて「アングボンゴ！」(向こうに行ってください)、「イルンゴ！」(ここに座って下さい)と地元看護師さん顔負けに、元気な笑顔でタミル語をあやつるAMDAスタッフの姿に、このプロジェクトとスリランカにおける着実なる和平への前進を願ってやみません。日本ではスリランカに関する報道が極めて少ないのが現状ですが、若い日本の仲間達が厳しい環境の中で平和を確かなものとするため、医療の分野で汗を流しています。日本の皆様からの温かいご支援を是非とも宜しくお願い致します。

AMDAスリランカ医療和平事業担当 丸山 尚人

↓ 地雷撤去作業

破壊された公民館を使用して巡回診療実施 ↓



### 第18回AMDA国際会議開催

日時 11月10日～12日  
 場所 スリランカ・コロンボ

2003年度のAMDAインターナショナル(世界30カ国のAMDA支部)の会議は、日本、スリランカを含め15の支部の参加により

- ・AMDA医療和平プロジェクト
  - ・緊急救援時のIT活用法
- の2つのテーマで話し合いが行われました。



## ケニア・キベラスラムにおけるエイズ対策プロジェクト

前AMDAケニア事業担当 横森 佳世

AMDAは2001年6月に、キベラスラムのマシモニ地区において保健医療プログラムを開始しました。以来、地元でクリニックを営営するFREPALSと連携し、クリニックの一般診療強化、保健衛生改善、エイズ対策等のプロジェクトを推進してきました。

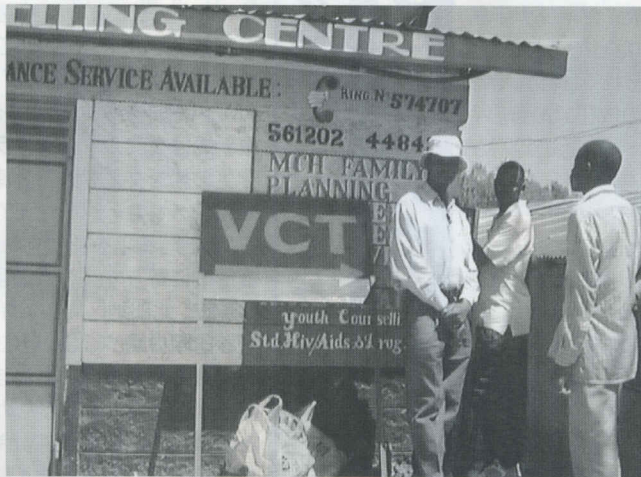
FREPALSクリニックは一般診療を実施しています。月1,000人に及ぶ外来診療(うち半数が新患)があり、産科、小児科、予防接種、家族計画、男性の割礼等を実施しています。AMDAは医療機材を提供しました。この診療所は、キベラではトップレベルの保健医療施設です。

2003年1月よりAMDAはクリニック内で、念願のVCTセンターをオープンしました。

VCTとはVoluntary Counselling and Testingの略です。日本語では、自発的カウンセリング・HIV検査と訳しています。VCTの特徴は、人びとが自発的にカウンセリングと検査を受ける点にあります。これまでは、職場や学校での半強制的な検査が横行していました。自らの意思で感染の有無を知ること、人生を自分の力でコントロールすることができます。ただし、それを知るときの心理的負担が大きいことから、カウンセラーの助けを借りて

感染結果を知ることが奨励されています。

わたしたちは1年半の準備を経て、カウンセリング施設の確保、カウンセラー養成、HIV検査研修、保健省からの承認といった条件を満たしながら、同時に、AMDAデー(青少年育成プログラム発表会)や世界エイズデーといった地域普及活動を展開して感染の有無を自覚する必要性を訴えてきました。



VCT (自発的カウンセリング・HIV検査) センター

HIVのステータスを少しでも早く、カウンセラーの助けによって適切に知ることにより、HIV期間を延ばして人生を前向きに生きる支援をすると同時に、それによって感染の拡大を防ごうというエイズケアの入り口となる事業で、一旦VCTをオープンしたら、5年は継

続させなければコミュニティーに対して責任を果たせません。

AMDAのVCTは、増えてきたクライアントにきちんと対応するため、少なくとも訓練された常駐カウンセラーを2人は置くことにしました。カウンセラーは、自分の枠を取り払ってクライアントに寄り添って共に問題を考えるため、そのまま続けては燃えつき現象が起こります。これを避けるため、カウンセラーのためのカウンセリングであるスーパービジョンを毎月実施しており、これは雇用者側の義務でもあります。それでも1日に1人のカウンセラーが対応できるのは7人が限度。さもないと、質が下がってしまいます。10~20代の青年が多いクライアントに、質のいいサービスを提供するため、常に前進が必要です。ちなみに、AMDAはできるだけ違う部族のスタッフを雇用することにしていますが、どうしてもカウンセラーには特定の部族が多いのが現状です。

ケニア政府主催のVCT会議等では、AMDAも実績を発表、キベラでのVCTやカウンセリングに関する調査結果も発表しました。AMDAはエイズ大国であるアフリカで、唯一VCTをしている日本の団体なので、様々な団体から見学、問い合わせがあります。私たちはクライアントの安全を確保しながら、データにするシステムをAMDAケニア内に確立しているので、今後も増えるクライアントをカウントし、後々にも貴重な疫学資料として活用していきながら、人々にとってよりよい戦略を考えて、サービスを提供していこうとして



## プロジェクト便り

## ミャンマー

- ミャンマーの中部乾燥地帯に位置するパコック市、ニャンウー市、メッティーラ市各市内にAMDA診療所を構え診療活動を実施するとともに、3市の15村の無医村で巡回診療を中心に、栄養給食活動や保健衛生教育活動を総合的に実施しています。
- 巡回診療を実施する15村のうち、メッティーラ市アレイウ村に地域病院が開設され、9月14日にチョウ・ミン保健大臣、AMDA菅波代表出席のもと式典が開催されました。
- ミャンマーでもHIV問題は深刻化の兆しがあり、中部乾燥地帯でHIV予防に重点をおいたプログラムを展開しています。
- AMDA研修センター(ACT)では、ミャンマー保健省と協力し、伝統医に対して東洋医学(針灸・指圧)研修を行い、住民にとって医療サービスが受けやすい環境を目指しています。



- AMDAカンボジアクリニック(ACC)をして6年が経過し、現在はAMDAカンボジア病院(ACH)へ移行する準備を行っています。カンボジアの保健医療向上に力を注ぎ、医療スタッフの養成・研究センターとして成の機能も兼ね備えようと計画しています。
- コンボンスプー州での巡回診療は、基本村々を回り、身体障害者、高齢者、貧困層に重点を置いています。同時に病気予防に関する知識を習得するために保健衛生教育も行っています。さらにプロジェクトを推進するため、ヘルスポランティも行っていきます。



## 国民参加型人道援助外交としてのイラク復興支援

AMDA代表 菅波 茂

平和を阻害するものとして戦争、災害そして貧困がある。戦争が終わっても平和でない論拠である。イラクは国家がやるべきことができてない。治安、飲料水・食糧の確保、医療機関の運営、教育の復興等々。必要な支援は挙げればきりが無い。何でも役に立つ。何でも喜ばれる。「日本はイラクの人たちのために活動をする」という明確なメッセージのもとに、国全体が人道支援に参加している姿勢を示しながら、自衛隊、NGOを出すべきである。出せるカードはすべて切れ。

イスラムの人達は啓典の民である。まず最初に言葉ありきである。世界は啓典の民が動かしている。経典の民とのコミュニケーションはメッセージにある。国会議員は国民の代表としてイラクおよび周辺国のメディアに出演して日本のメッセージを熱く語ればよいのである。さらに「日本はイスラムを敵としていない」というメッセージを伝えるためには、中近東やアジアのイスラム諸国に自衛隊と多国籍軍を編成することを要請すればいい。

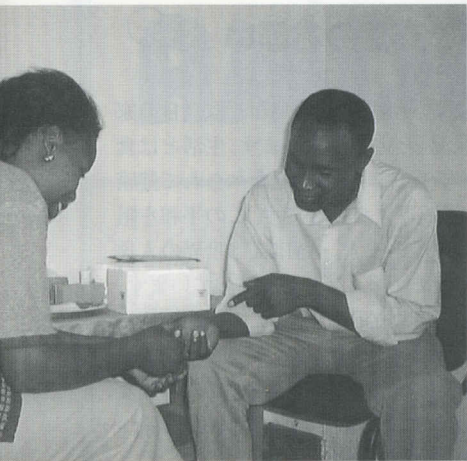
1991年の湾岸戦争の時に1兆4千億円の血税を多国籍軍に提供した。そのために国民は特別立法のもとに10年間税金を納め続けた。しかし、クエートが米国の新聞に謝辞を呈した30ヶ国に日本の名前はなかった。忘れてはいけない。「顔の見えない日本」の恐怖感を。日本が学ぶべきは「人道

支援とは参加」であると。金を出すだけで何もしないのは最悪である。危険だからこそ必要とされている状況がある。「国益が不明確だから自衛隊を派遣すべきではない」という人達は1991年の湾岸戦争の時に日本が何を失ったかを省みて欲しい。国益の意味が一目瞭然に理解できる。



イラクにはすでに15ヶ国以上の軍隊が派遣されている。多くの国際NGOも活動している。自衛隊派遣に百億円を予算化するなら、NGOの活動にも百億円を。国民参加型人道援助外交の具現化である。国民参加型人道援助外交とは国民の指導者である国会議員と公益を担うNGOとの連携を国益を担う官僚が支援して、日本の人道援助のメッセージのもとに外交を展開することである。目的は尊敬と信頼を得ることである。

最後に、「AMDAは助ける命あれば何処へでも行く」という原則のもとにイラク復興支援に協力したい。ご支援をお願いしたい。



VCTセンターにおけるHIV検査

います。またカウンセリングはHIV/AIDS以外の問題や悩み事、成長過程での課題にも対応しています。こうした一般カウンセリングは親子の不和、家庭内暴力、結婚相手探し、性欲コントロール、墮胎、強姦、いじめ、職探し、飲酒、薬物中毒、うつ病、自殺願望等幅広い領域に渡りますが、AMDAでは両方のサービスを提供していきます。

AMDAのVCTプロジェクトは、エイズが蔓延するアフリカにおける本邦初の試みでした。国際ボランティア財団配分などの支援を受けて、2年掛けてここまで辿り着きましたが、今後もケニア最大のキベラスラムでこの活動を続けていきたいと考えています。プロジェクト推進のためには、皆様からのさらなる資金的、精神的ご支援が必要です。どうぞVCTプロジェクトをご理解下さり、ご支援下さいますようお願いいたします。

### カンボジア

建設病  
特に貧困層、障害者への保健医療支援を目的  
できましたが、今後はACHをカンボジア人  
地域保健医療サービスの担い手となる人材育  
保健医療サービスを受けられない遠隔地の  
人々への診療と薬の処方無償で提供してい  
てもらおうと、薬、衛生、性感染症等をテ  
住民自身の手によるコミュニティ開発プロジ  
対象のワークショップを開催し、指導者育成



■ 11月2日にネパール子ども病院が設立5周年を迎えました。首都カトマンズ以外にある唯一の産婦人科・小児科専門病院として、ネパール西部の女性、子どもたちのための適切な医療サービスの提供、その向上に尽力してきました。2001年には新小児病棟（篠原記念小児病棟）を開設し、病床数が倍増し、新生児・小児特別治療室が稼働しました。地域の人々からの病院に対する信頼が高まり、現在、1ヶ月平均約4千人の外來患者、約450人の入院患者の診療を行い、また、1ヶ月平均約180件の分娩を取り扱っています。  
■ネパール子ども病院は母子の身体的健康面、精神的充足を重視し、また妊産婦の安全と胎児の健やかな成長のために妊婦検診外来を開設しました。保健衛生教育活動を通して、村落の女性たちに妊産婦の定期的検診の必要性を伝え、日本から派遣した助産師が出産助産の担い手である伝統助産婦に妊娠・分娩・産後の母子保健に関するトレーニング、地域の母子保健専門家に妊婦検診や母子保健についての指導を行っています。

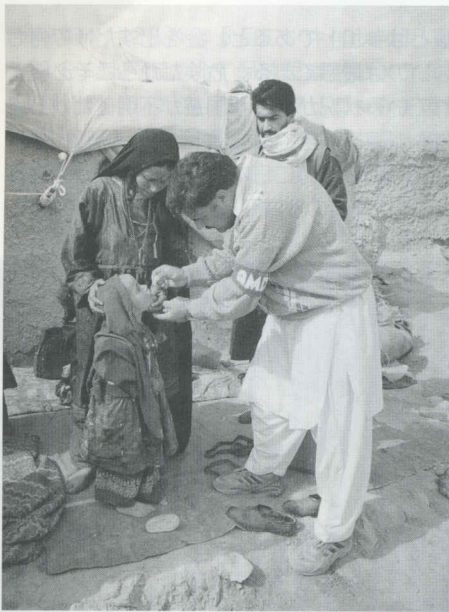


### ネパール





**国際協力事業団 (JICA)  
第24回国際協力フォトコンテスト  
JICA 総裁賞に選ばれました**



アフガン難民支援プロジェクト (予防接種投与風景)  
撮影：AMDA職員 山上正道

◆撮影場所…パキスタン イスラム共和国  
パロースタン州にあるラティファバド アフガン難民キャンプ。キャンプの場所はパロースタン州の州都クエッタから南西に車で75分走ったところにあり、80%以上が少数派のウズベキ系アフガニスタン人が住んでいる。

◆撮影した状況…3日間かけて難民キャンプに住む6歳以下の子供たちにポリオ投与を行った。当時7500人いたキャンプの1軒1軒を回り、取りこぼしがないよう難民登録カードで子供の人数を確認しながら行った。この3日間AMDAの現地スタッフと同行し親からの許可を得て撮影した。

◆コメント…アフガン難民キャンプで調整員として2002年1月～3月まで活動しました。彼らの居住区の中に入り、その生活を見せていただき、またいろいろな話を聞いたことが、私にとってこの難民支援の中で一番大きなことでした。撮影したアフガン難民の方々はまだ母国アフガニスタンに帰れずこのキャンプで生活を強いられています。平和な国への復興のため健康に帰国できるようこれからもAMDAの一員として協力していきたいと思えます。

**AMDA プロジェクトご支援のお願い**

AMDAの活動は「平和」を目的としています。AMDAは「平和とは今日の家族の生活と明日の家族の希望が実現できる状況」と定義しています。生活とは食べられて健康なこと。希望とは子供に教育を与えること。即ち、食べられて健康で教育を受けられるということは、人間として不可欠なことです。この平和を阻害する要因として戦争、災害そして貧困をあげています。AMDAは世界の人達とこれらの要因を改善する目標のもとに様々なプロジェクトを実施しています。

プロジェクトを共に実施する際には様々な問題に直面します。この問題を解決する過程において「尊敬と信頼」の人間関係が成立します。この人間関係こそ宗教、民族そして文化を超えた人間理解を可能にします。物の見方や考え方の異なった人間が相互理解を可能にすることができます。「尊敬と信頼」の人間関係つまり『多様性の共存』こそAMDAの活動理念といえます。

**AMDA 人道支援3原則**

- 1) 誰でも他人の役に立ちたい気持ちがある
- 2) この気持ちの前には民族、宗教、文化の壁はない
- 3) 援助を受ける側にもプライドがある

こうした活動目的と理念のもとにAMDAのプロジェクトは大きく4つの分野で国際人道支援活動を行っています。

- 1) プライマリヘルスケア (健康増進・保健教育・エイズ予防等)
- 2) AMDA-Hospital-Clinic-Shop (医療機関経営支援・巡回診療)
- 3) AMDA健康開発銀行 (生活向上支援・自立支援・小規模融資)
- 4) 緊急救援

2003年11月現在、アジア、アフリカ、中南米13カ国において活動を展開しています。各プロジェクトは皆様からの貴重な募金と税金により支えられています。具体的には日本国内の皆様からのご寄付、あるいは国連高等難民弁務官、国連開発計画、国連ボランティア、世界銀行、アジア開発銀行、米州開発銀行、外務省、日本郵政公社 (国際ボランティア貯金)、国際協力事業団等々との連携です。

2003年8月より20年目に入りました。さらにAMDAの活動内容の充実を図りたいと考えております。どうぞAMDAの活動をご理解下さり、変わらぬご支援を下さいますようお願い致します。

郵便振替：口座番号 01250-2-40709 口座名 AMDA

- \*ご寄付下さいます際には同封の郵便払込取扱票をご利用下さい。
- いずれかのプロジェクトへの指定寄付の場合には連絡欄にご明記ください。
- \*寄付控除に関するお問い合わせは：TEL 086-284-6051
- \*書き損じはがき、未使用切手・はがきを集めています。
- 書き損じはがきは切手と交換し、通信費として使用させて頂いております。

**「医療和平」**

多国籍医師団  
アマダの人道支援  
菅波 茂 著  
発行 集英社  
定価 1500円＋税

21世紀を生きる子ども達の命を救いたい!

AMDA医療和平プロジェクトの原点。救える命があればどこへでも行くAMDAの緊急救援活動と危機管理。



AMDA 刊行物案内

**「なぜ医師たちは行くのか？」**

国際医療ボランティアガイド

発行 羊土社  
定価 2200円＋税

人の命に国境はない!  
医師として、看護師として、また友として、世界各地で医療協力を尽力する医療従事者たちの体験談を中心に、国際医療ボランティアの魅力と実態を紹介。

AMDA菅波茂代表、三宅和久派遣医師も執筆。国際医療ボランティアを志す人必見の実践的ガイドブックです。

**なぜ医師たちは行くのか?**

